

2018 SGH通信

【2年生配布用】

No.12 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

論文作成前に「プレゼンテーション講演会」を実施します！

いよいよ皆さんは、10月から論文を作成しますが、最終的にこの論文を7分間でプレゼンテーションしてもらいます。しかし、分かりやすいプレゼンを行なうためには事前準備がどれほど大切か昨年実感したと思います。

そこで、昨年と同じ講師を招きまして、「SGH 課題研究」において探究してきた研究成果を、聴き手に分かりやすく印象に残るものとして伝達するためのプレゼンテーションの技術を身に付けることを目的とする講演を、今年も論文作成前に企画しました。論文作成での情報収集の質の高さが、良いプレゼンにつながります。是非、先も見据えた探究活動にしてください。

■ 実施概要

- 1 日 時 平成30年10月3日（水）
3時間目 10:45 ～ 11:35 【4クラス】
4時間目 11:45 ～ 12:35 【4クラス】
- 2 場 所 大垣北高校ゼミナール室
- 3 講 師 京都造形芸術大学 吉田大作 先生

【講師紹介】

日本最大の芸術大学で事務局長を務めながら、1年間に100本以上の講演依頼を受け、毎年国内外2万人の高校生を中心に講演を行う。大学では、全13学科23コースの学生を対象とした『キャリアデザイン』の授業を担当。

「日本で最も高校生に直接講演をしている一人」と数えられる。

【主な講演テーマ】

- 「進路を検討する前に考えておくべきこと」
- 「プレゼンテーションの鬼」
- 「コミュニケーション力向上ワークショップ」
- 「問題解決力向上ワークショップ」

その他、教員向けの研修、保護者向けの講演、企業や自治体での企画・広報・プレゼン研修なども多数行っている。



【本校でのご講演風景】

- 4 演 題 「聴き手の共感を得るプレゼンテーション」
- 5 持ち物 筆記用具・SGHファイル・「SGH通信No12（本紙）」

平成26年度文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

まずは、論文をしっかりと作成しよう！

【日本語論文作成にあたって】：次の点で共通認識を図って、前進していきましょう！

Q. 誰に向かって書くのか？

→ A. あなたの研究フィールド国の高校生が読むことをイメージして書こう！

Q. 「あなたらしさ」はどこで表現しますか？

→ A. 自分のこだわりの部分を意識して、そこに大きなエネルギーを注いでください！

Q. ゼミ指導後は誰に頼りながら、論文作成を進めるのか？

→ A. 困ったことは、本校のゼミ担当の先生に話して解決策を見つけていきましょう！また、ゼミ指導の大学の先生に聞きたいことがあれば、本校のゼミ担当の先生を頼ってください。本校の先生で対応できない場合は、大学の先生に問い合わせることも可能です。

※日本語論文作成の「ルーブリック評価表」を参考に掲載します。評価の観点を確認してください。

項目	不十分な状態（1点）	やや不十分な状態（2点）	やや満足のいく状態（3点）	満足いく状態（4点）
資料収集	インターネット資料のみを活用している。	論文・書籍を資料として活用している。	複数の論文等を活用している。	複数論文にインタビュー等を加えている。
論文の型 ×2	型を理解せずに書いている。	型の理解が不十分のまま書いている。	型を理解して書いている。	型を十分に理解し、読みやすく書いている。
論文の質（研究の価値）	研究の価値が十分に見い出せない。	ある程度研究の価値を感じることができる。	価値のある研究だと感じる。	極めて価値のある研究だと感じる。
論文の質 ×2（論理展開）	論理的な展開ができていない。	論理的な展開にやや不十分さが残る。	概ね論理的な展開ができています。	極めて論理的な文章構成ができています。
論文の質 ×2（状況改善への意欲）	課題改善に関する記述がない。		課題改善のための先例に関する記述がある。	課題改善のために独自の提案がなされている。
自主的な活動態度 ×2	他者に依存する部分が多々みられた。	教員の働きかけで活動した。	自主的に調べたり活動できた。	調べ学習など様々な活動を自主的に行うことができた。

※こちらは、日本語プレゼンの評価項目です。

項目	不十分な状態(1)	やや不十分な状態(2)	やや満足のいく状態(3)	満足いく状態(4)
PPTの作成(スライド)	文字が多すぎて、わかりにくい。	箇条書きにまとめてあり、わかりやすい。	図や写真等も入れ、わかりやすい。	スライドの順番も適切で、図や絵なども入れ、とてもわかりやすい。
PPTの作成(論理性) ×2	主張のみで根拠がない。	主張に対する根拠が明確でない。	主張に対する根拠が明確である。	主張と根拠をつなぐ説明に納得がいく構成になっている。
説明する力(話し方)	原稿を読み上げる段階である。	原稿を見ずに説明することができた。	原稿を見ずに、聴衆に語りかけようように説明することができた。	原稿を見ずに、適宜間を取りながら語りかけ、聴衆を巻き込む説明ができた。
プレゼンテーションの技術	聴き手を意識したプレゼンではない。	身振り手振りを使って表現できている。	身振り手振りに加え、ボイスコントロールも上手にできている。	身振り手振り・ボイスコントロールに加えて、アイコンタクトもできている。
聴衆の記憶 ×2	全く記憶に残っていない。	あまり記憶に残っていない。	比較的記憶に残っている。	しっかり記憶に残っている。
質問への対応力	質問に答えることができない。もしくは答えが曖昧である。		根拠ははっきりしないが、自分なりの考えで質問に答えている。	調べた根拠をはっきりと示しながら、質問に答えている。